

KOBELCO



人と地球の未来を考える
社会環境報告書
2009

コベルコ建機株式会社



| |
|-------|
| 1 |
| 2 3 4 |

1. 復興現場で稼働する建設機械
2. 復興現場へ向かう様子
3. 復興現場で活動する様子
4. 山間部の法面崩壊

Column

一人ひとりの思いが、 復興支援の強力なパワーに

時間を追うごとに被害の甚大さが分かり、支援に必要な建設機械の数も増えていきました。提供する製品が間に合わず、徹夜作業をして送り出したこともあります。従業員はみな、余震の恐怖と不安に怯えながらも、復興支援へ強い思いを持ち、工場での生産に従事しました。また、従業員の声かけで集まった義援金は40万円にものぼりました。



震災に立ち向かう

2008年5月12日14時28分、

いつもと変わらない穏やかな1日が、一瞬にして恐怖と混乱の1日に変わった。

中国四川省を震源地としたM8.0の大地震が発生し、

同地にあるコベルコ建機グループの販売拠点と2つの工場が被災。

余震が続く中、私たちはいち早く復興への支援に立ち上がった。



- | | |
|---|--|
| 1 | 1. 支援物資を一丸となって配送 |
| 2 | 2. 復興支援のため建設機械を市政府に寄贈 |
| 3 | 3. コベルコ建機グループの取引先および関係会社、従業員による建設機械、義援金の贈呈(成都市経済委員会主催の贈呈式) |

大地震の恐怖と混乱から従業員を守る

まさに“一瞬”の出来事で、何が起ったのかを理解することさえ困難なほどの激しい揺れ。“仕事場から安全な場所へ走る”それが、その時にできた唯一の行動だった。日本と違い、地震に慣れていない中国の従業員たちは、経験したことのない恐怖と混乱の中、半ばパニックに陥った。長年の経験から、日中の文化の違いを把握している幹部は、即座に中国人の管理職を緊急対応リーダーに据え、必要な対策を執った。

さかのぼること数年。2005年に発生した洪水で成都の工場は浸水した経験がある。この反省から危機対応マニュアルがつけられ、今回の震災時に選ばれたリーダーたちは、このマニュアルを熟知している人たちだった。

実際、リーダーたちの対応は早かった。地震発生後20分も経たないうちに工場の電力を落とし、屋外に従業員を集めて臨時集会を行った。各拠点では ①従業員と家族の安否確認 ②二次災害防止対策 ③従業員のメンタルケア を行った。同時に、生産設備を点検し、物流経路の確保や社内ネットワークの回復作業を進めた。

被災地支援へ向けたトップの素早い決断

各地からの情報を集め、被害の大きさに気づいた幹部たちは、工場や従業員への対応と平行して、被災地支援を決断。各拠点ではすぐさま、建設機械／燃料／飲料水／食料などの手配を開始し、震災翌日の5月13日の朝には、復興支援として油圧ショベル3台、ホイールローダ9台(このうち油圧ショベル2台、ホイールローダ4台を市政府に寄贈)を送り出した。後に、この冷静で素早い決断は、市政府から高い評価をいただいた。

コベルコ建機グループは、阪神淡路大震災で甚大な被害を受けた経験から、被災者の気持ちや必要な対策をよく知っていた。被災地の復興に真っ先に必要なのは、“支援物資を輸送するための道路整備”と“倒壊した建物の瓦礫除去”。再建には建設機械が欠かせないのだ。コベルコ建機グループの工場は、大きなショベルが行き来するため強固な基礎の上に建ち、建物そのものの被害は少なかったが、従業員並びにその家族の安否を最優先しつつも、わずか数日で生産を再開できたことは、奇跡的なスピードと言える。これは「少しでも早く高品質の製品を供給することが復興支援につながる」という意識で従業員たちが一致団結し、自らの恐怖を乗り越えて作業に従事した結果だった。素早い工場再開は、長年にわたり大規模災害における復興支援に熱心に取り組んできた建設機械メーカーとしての経験と知識、そして従業員の高い志と信頼関係が礎になっている。

子どもたちの未来をつくる小学校の再建

コベルコ建機グループが成都市に拠点を構えてから15年。成長を支えてくれた地元が壊滅的な状態になり、未来を担う子どもたちから大事な学び舎が奪われた。何かできることを探していた矢先、成都市が進める小学校再建計画を知り、彭州市の麗春鎮慶興中心小学校を再建する費用をコベルコ建機グループ3社が全額負担することになった。コベルコ建機グループは、使命としての建設機械の供給はもとより、“自分たちにできること”で被災地支援を続けている。



| | |
|---|---|
| 1 | 3 |
| 2 | |

1. 彭州市麗春鎮慶興中心小学校起工式
2. セレモニーに参加した子どもたち
3. 新校舎完成予想図

CSR Message

人と地球の未来を考える、コベルコ建機グループのCSRメッセージ

Message 1

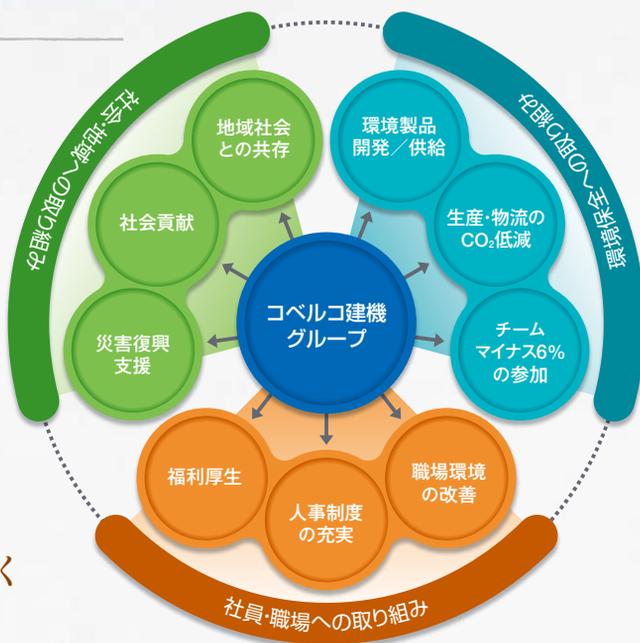
コベルコ建機グループは、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、コベルコ建機グループならではの地球環境保全を行っています。

Message 2

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。

Message 3

コベルコ建機グループの社員は、より良い未来の実現に向け、共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。



未来へ歩み続けるコベルコ建機グループ

コベルコ建機は、1999年に神戸製鋼から独立して以来、企業体質の強化と販売力・商品力の向上に努めてきました。それから10年、皆さまのお陰で順調に成長を続け、近年では環境をキーワードに開発した機械を市場に投入して高い評価をいただいています。また、新しい市場創造に積極的に取り組み、独創的・革新的な新技術の採用などを進め、随所でコベルコらしさを発揮し続けています。

今日、建設機械を取り巻く事業環境は大きく変化しています。市況の変化や間近に迫る環境規制への対応等、挑戦すべき課題は山積しています。コベルコ建機グループはこうした事業環境の変化への対応力やスピード感を大切に、これからも世界中の要望に応えられる建設機械を世に送り出し、信頼される企業を目指します。

一方、社会からは企業に対して、ますます責任や信頼を求められています。企業が社会からの要求に応えるためには、社員のコンプライアンス（法令遵守）のみならず、人としての道徳や倫理観が最も重要です。こうした価値観は会社や社員が、社会と触れ合いながら育むものと認識して、コベルコ建機グループは「CSR活動」を重要活動と位置づけています。

私たちコベルコ建機グループは、豊かな世界を育むため、地球と人の未来を考えて着実に一歩ずつCSR活動に取り組んでいます。そして、関係する全てのステークホルダーとの信頼関係を築きあげ、事業活動をいつまでも続けていきたいと思っています。

●社会環境報告書の発行にあたって

コベルコ建機グループではCSR活動を全社的に始めてから3年が経過しました。グループ内でもCSRという言葉が定着しつつあり、活動も点から線へ、線から面へ、とさまざまな活動が行われるようになってきています。

本年10月には会社設立10周年の節目を迎えることもあり、CSR活動のみならず、コベルコ建機グループとしてさまざまな視点から評価をいただき、よりいっそうコベルコ建機グループの活動を活性化させていきたいと思えます。

本報告書を通じて、社員やユーザーなどをはじめ、取引先企業や地域社会の方々、事業活動に関わるあらゆるステークホルダーの皆さまに、コベルコ建機グループへのご理解を深めていただければ幸いです。

●報告書の対象に関して

【対象組織】 コベルコ建機株式会社本社および、国内外の事業所、営業所、工場等、その他全ての関連施設を対象としています。

【対象期間】 2008年4月1日～2009年3月31日
（一部2009年4月1日以降の情報を含む）

【報告書発行】 2009年5月



Contents

特集

- 01 ● 四川大地震復興への支援活動

はじめに

- 03 ● CSRメッセージ・活動概念
- 05 ● コベルコ建機グループの概要
- 07 ● トップメッセージ
- 08 ● コベルコ建機グループのCSR

コンプライアンス・全社活動報告

- 09 ● コンプライアンスの徹底と社会的責任
- 11 ● 職場と人をつくる全社活動

社会・地域活動報告

- 13 ● コベルコ建機CSR基金
- 15 ● 地域活動
- 18 ● CSR賞制度

環境保全活動報告

- 19 ● 環境マネジメントの取り組み
- 21 ● 環境数値
- 23 ● 環境リサイクル機械
- 24 ● SK950DLC開発ストーリー

社員のコメント

- 25 ● 社員からみたCSR活動
- 26 ● 編集後記

コベルコ建機グループの概要

●会社概要

会社名 コベルコ建機株式会社
英文社名 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.
創立 1999年(平成11年)10月1日
事業所所在地 東京本社
 〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号
 TEL:03-5789-2111
広島本社(広島事業所)
 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号
 TEL:082-874-1111
大垣事業所
 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7
 TEL:0584-89-3104
URL <http://www.kobelco-kenki.co.jp>
資本金 160億円
代表者 代表取締役社長 小谷 重遠(こたにしげとお)
事業内容 建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス
従業員数 889名(グループトータル5,132名)[2009年4月1日時点]
売上高 2,603億円[2008年度]

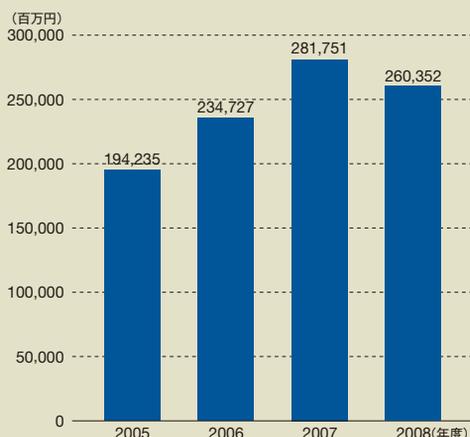
●国内法人

東日本コベルコ建機(株)、西日本コベルコ建機(株)
 コベルコ建機エンジニアリング(株)、ユタニサービスサプライ(株)
 コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)
 コベルコ豊田通商建機ホールディングアジア(株)、中村リース(株)
 トーヨースグウエ(株)、(株)ササイ、(株)ワイズヨシハラ

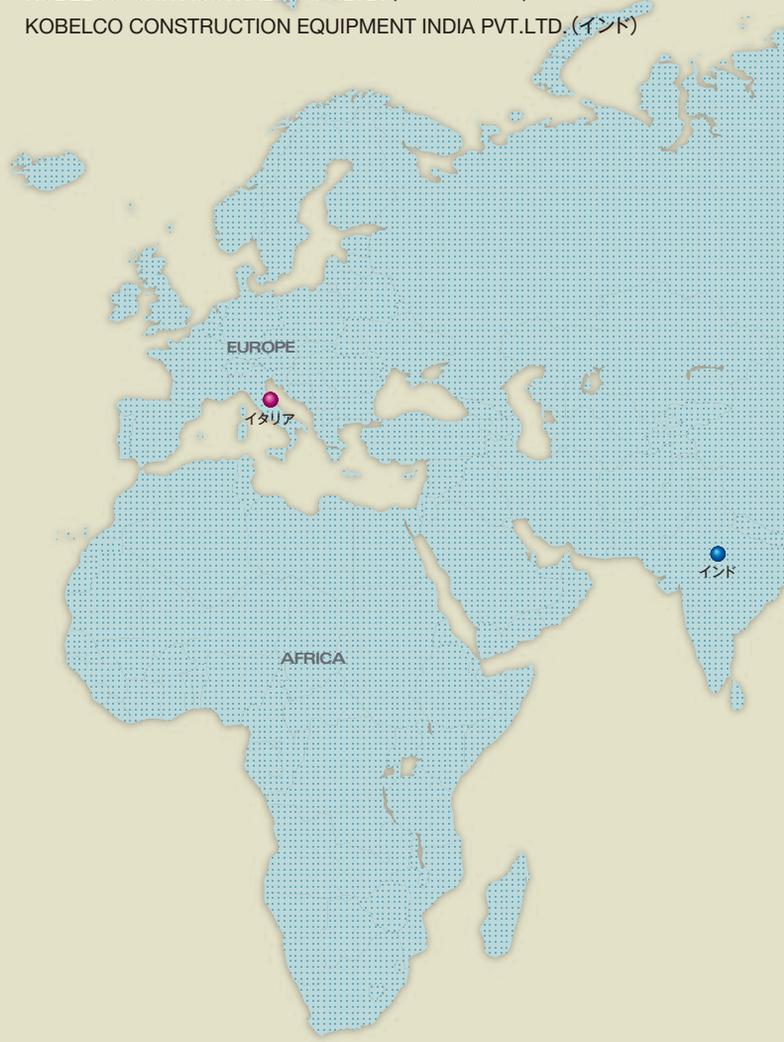
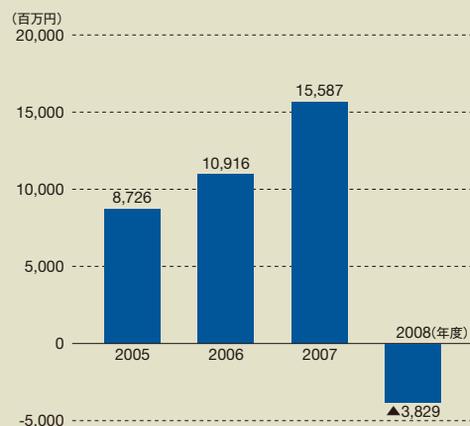
●海外法人

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AMERICA LLC(アメリカ)
 New Holland KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY S.p.A(イタリア)
 成都神鋼工程機械(集団)有限公司(中国)、成都神鋼建設機械有限公司(中国)
 成都神鋼小型掘削機有限公司(中国)、成都神鋼建機融資租賃有限公司(中国)
 杭州神鋼建設機械有限公司(中国)、神鋼建機(上海)工程機械有限公司(中国)
 THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD(タイ)
 KOBELCO INTERNATIONAL(S)CO.PTE.LTD(シンガポール)
 RICON PRIVATE LIMITED(シンガポール)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY MALAYSIA SDN.BHD(マレーシア)
 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY VIETNAM CO.,LTD.(ベトナム)
 Pt. DAYA KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY INDONESIA(インドネシア)
 KOBELCO-CNH AUSTRALIA PTY.LTD.(オーストラリア)
 KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT.LTD.(インド)

●売上高推移



●経常利益推移





広島本社 (広島事業所)



大垣事業所



東日本コベルコ建機 (株)



西日本コベルコ建機 (株)



成都神鋼建設機械有限公司 (中国)



成都神鋼工程機械 (集団) 有限公司 (中国)



杭州神鋼建設機械有限公司 (中国)



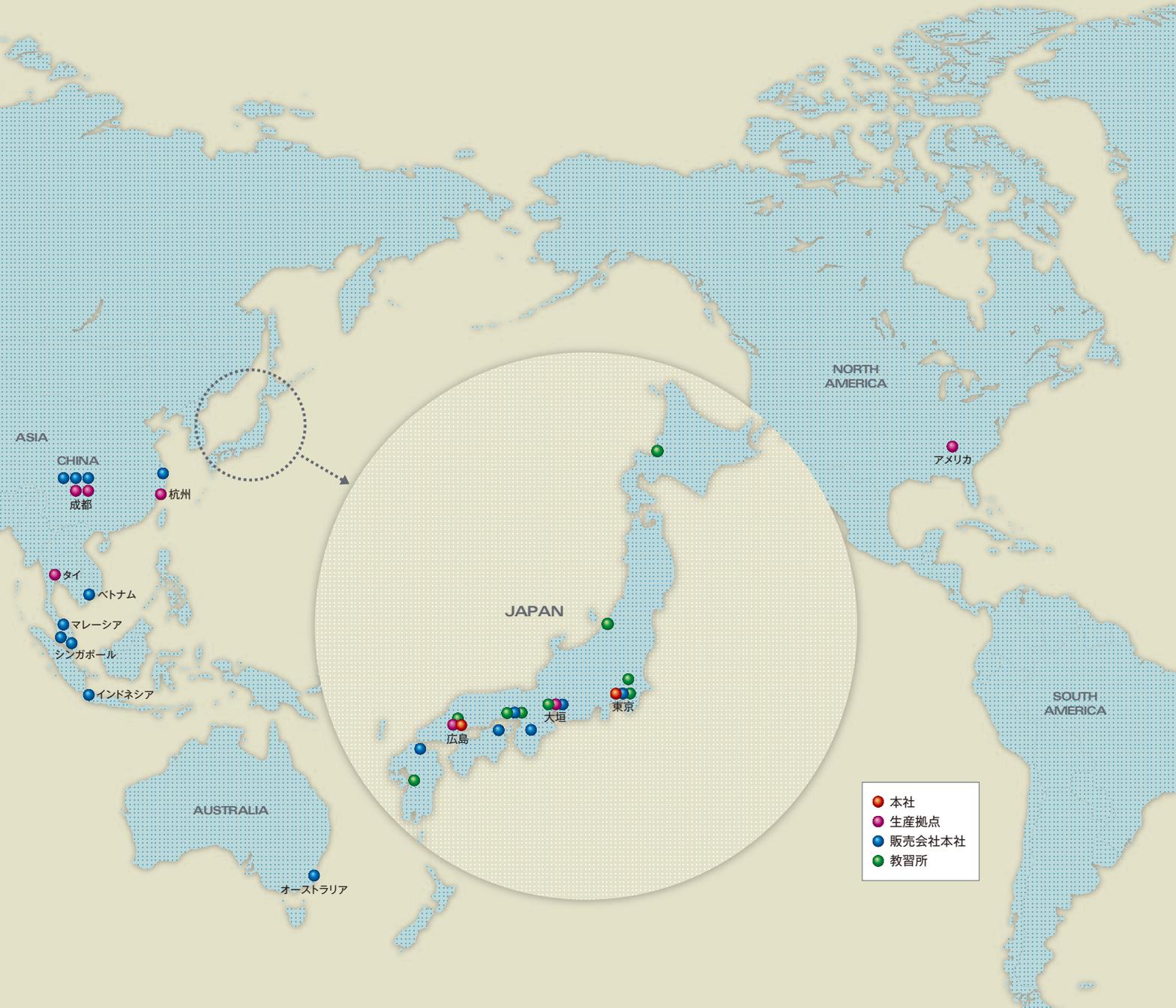
ダヤコベルココンストラクション マシナリーインドネシア (インドネシア)



コベルコインターナショナル シンガポール (シンガポール)



タイコベルココンストラクション マシナリー (タイ)



トップメッセージ



良き企業市民として社会へ貢献する コベルコ建機グループのCSR活動。

コベルコ建機株式会社
代表取締役社長

小谷重遠

優れた製品力・技術力・組織力で、逆境を『宝の山』へ

コベルコ建機グループの特徴は、建設機械の中でも油圧ショベルに特化した製品を扱っている点です。油圧ショベルは、汎用性・応用性の高さから潜在成長力を秘め、世界で最も需要が伸びています。この分野を事業領域に選択していることは、今後においても強みといえるでしょう。さらに製品開発に関しても、非常に優れた技術開発力を持っています。先進のシミュレーション技術をもとに開発した低燃費・低振動・低騒音の製品は、世界でもトップレベルです。また組織が軽装備で、事業に応じて最善のサプライヤーと柔軟にパートナーを組める体制なのも、コベルコ建機グループの特性として挙げられます。これらは、現在の経済危機下での事業戦略においても有効な長所といえます。それ以前が空前の成長だっただけに、その対応は緊急を要するものですが、視点を変えれば、増産に追われ贅肉がついた組織は、実は「宝の山」。改善の余地がいくらでもあり、対処を徹底すれば強い会社へと変貌する好機となるはずです。自信と希望を持ち、できる限り速やかなV字回復をめざしたいと思います。

社会と人々の幸福につながるものが、企業活動の基本

昨今、とにかく短期でも利益を上げようとする企業も多く見られますが、果たしてそれが企業の姿なのでしょう。私は、企業の目的とは永久に、できれば発展的に存続していくことだと考えます。利益や成長とは

そのための手段なのです。立派にやっている良い会社だと社会から認められ、社員もそこで働くことを誇りに思う。究極的には、社会と人々の幸福につながっていく活動だからこそ、残り続けられるのです。儲けるためには、法に触れなければ手段を選ばないというのは論外。コンプライアンス以前の精神の領域です。そして、これこそが私たちのCSRの根本であり、それを具現化する社員の育成もCSRと一体なのだと考えます。つまり、企業人である前に一人の市民としての倫理観と道徳観を持ち、まず地域に根ざした活動を通して社会を幸福にする人間。そういう集団であることが、企業としても本当にいい成果が出せるのだと思います。

地域との絆を深める『身の丈にあったCSR活動』

私は単に金銭的な寄付を行うことが、CSRの本質とは考えません。やはり、そこに社員の思いや人的貢献がなければ。ですから社員が自発的に行うボランティア活動等へは、会社として全面的にサポートします。私たちの方針である『身の丈にあったCSR活動』も、つまりはまず会社に関わりのある地域に幸せになってもらおうという思想からなのです。昨年中国・四川大地震でも、省都である成都に海外法人を設けていたことから、救助や復興に向けて機械と共に社員を派遣し、また小学校1校の校舎から文具まで、まるごと再建を進めています。厳しい経営環境ですが、できることは惜しまず、また始めたことは継続する、を基本に活動を行っていきたいと思います。

企業理念

経営理念

当社は、ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで顧客の満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。

行動指針

当社にとって、顧客の満足に応え社会に貢献することが経営理念とするならば、我々の全ての行動はこの理念に沿うものでなければならない。

- 1 シンプル** 社会における使命と役割を充分認識し、是々非々を明らかにした公明でシンプルな行動をめざす。
- 2 スピード** 日々独創性と感性の研鑽に努め、顧客と時代の要請にスピードをもった確かな対応をめざす。
- 3 オープン** 互いの人格と個性を尊重するとともに公正を旨とし、オープンで活気あふれる自由闊達な社風の醸成をめざす。

コベルコ建機グループのCSR

コベルコ建機グループは、「人と地球の未来を考えるコベルコ」として、地球と社会と人にやさしい企業を目指しています。CSR組織体制を構築し、活動方針・活動ポリシーに従って、さまざまな活動を継続しています。



全社CSR委員会

CSR活動方針

世界中のユーザーとの強いパートナーシップのもと、私たちは持続的成長を実現することを通して人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいます。そして、コベルコ建機グループに脈々と流れるヒューマンな心情を受け継ぎ、CSR活動を通して、社員一人ひとりが磨かれ、成長するきっかけにしています。

その活動の中で私たちは次の3つの方針のもと、活動を行っています。

- ①コベルコ建機グループはコベルコ建機グループならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機グループは、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機グループは、社員と共により良い未来の実現に向けて進んでいきます。

CSR活動ポリシー

- 人道主義的でコベルコ建機グループの存在感を増すものであること。
- 身の丈に応じた活動であること。
- 事業を展開している地域での活動であること。

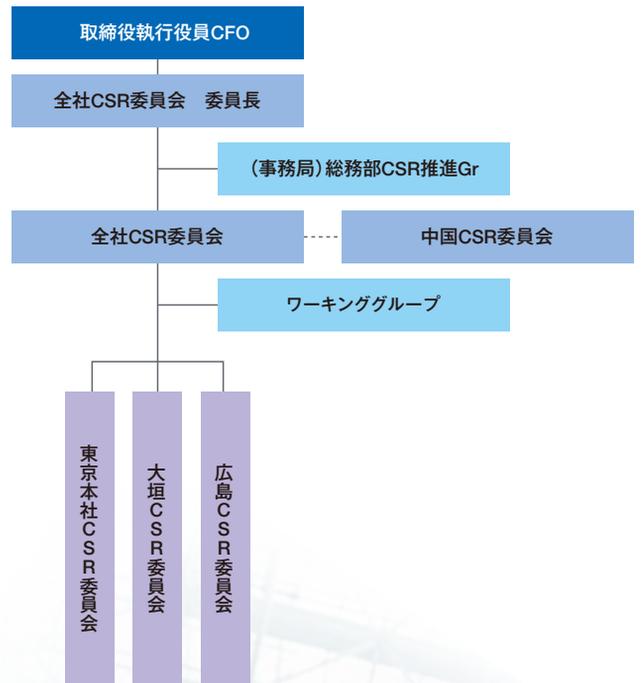
この3つのポリシーに従って「人と地球の未来を考えるコベルコ」をコンセプトに、さまざまな活動を進めています。単純に利益が出たからその一部を寄付するといった機械的なものでは、本当の意味で人や環境、そして自分たちのためになっているかどうかは分かりません。コベルコ建機グループでは、お互いに理解しあい、心が通うような活動や支援を大切にしています。まずは身近な人々に、まずは事業を展開させていただいている地域に。世界で、国内で、コベルコの建設機械がいるそばで、コベルコ建機グループのプレゼンスを高めていけるような活動を、一つひとつ行っていきたいと思います。

CSR活動の経緯

コベルコ建機グループでは、CSR推進Gr発足以前より、自然災害等により被災した地域へ、義援金の寄付や建設機械の寄贈を行ってきました。また、従来より建設機械メーカーとして当然ながら、化学物質、環境リスク等の環境活動も徹底してまいりました。これらに加え、地域社会への貢献や地球環境保全に対する活動を一層充実させ、当社の事業として実行するために、2006年度に運営体制を整備しました。2008年度にはこうした体制のもと、CSR活動ポリシーにのっとりさまざまな活動を実行することができました。

CSR組織体制

コベルコ建機グループは下記の組織体制を構築し、CSR活動を推進しています。CSR委員会は、CSR担当役員を筆頭に全社各部門の中堅、若手社員から選出されたメンバーで構成され、CSR活動の新規案件、スケジュール、中期計画などCSR活動の中核を担っています。



愛される企業としての信頼をつくるために 社会を支える

企業には製品に対する責任や、働く人への責任があります。
コベルコ建機グループは、高い意識で社会的責任を果たし、
より期待され信頼される企業を目指し、よりよい社会づくりに貢献します。



コンプライアンスの徹底と社会的責任

コベルコ建機グループのコンプライアンス活動は、社員を守り、会社を守ることです。
常識と法令を遵守し、人として企業として社会的な責任を果たすために、
グループ各社を含むコンプライアンス体制を構築し、高い意識を浸透させていきます。

コンプライアンス活動

コベルコ建機グループでは、企業経営上の法令遵守のみならず、企業倫理と企業の社会的責任が強く必要とされていると認識し、コンプライアンス活動を推進しています。活動の柱として、基本方針とコンプライアンス5原則を掲げ、社会的責任を果たすように努めています。

基本方針

- ① 私達はあらゆる企業活動において関係法令及びこの行動規程を含む社内諸規定を遵守し、企業倫理と社会常識から逸脱しないよう行動します。
- ② 私達はあらゆる企業活動において人権を尊重し、人種、性別、職業、年齢、国籍、社会的地位、宗教、身体的障害、言語、出身地等に対する差別を行いません。
- ③ 私達はあらゆる企業活動において当社と利害関係にある全ての人達との間で公正な取引を行います。
- ④ 私達は常に高い倫理観に基づき行動し、反社会的な行為や会社の名誉や信用を損なう行為を一切行いません。
- ⑤ 私達は常に安全性高く、地球環境の保全に十分配慮した商品を供給し、併せて顧客に喜ばれるサービスや必要な情報をタイムリーに提供します。

コンプライアンス5原則〈社会の常識を守る〉

- ① ルール違反・不正をしない。
- ② ルール違反・不正があった場合には、隠さない。
- ③ ルール違反・不正を発見した場合には、直ちにコンプライアンス責任者に報告する。
- ④ ルール違反・不正について報告した者は決して不利益を受けない。
- ⑤ ルール違反・不正に対し、即時に是正・防止策を実行し、的確・迅速に公表する

コンプライアンス委員会の設置

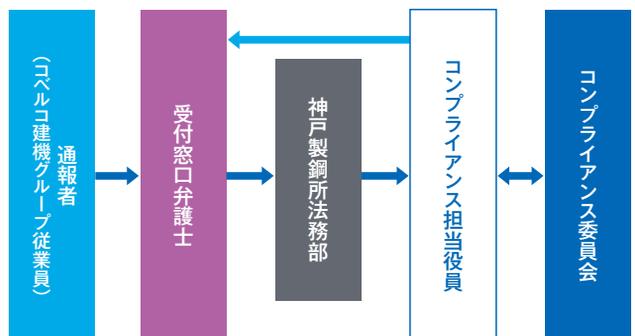
コベルコ建機グループでは、企業活動における法令や倫理の遵守活動を高めるため、取締役会から独立した機関としてコンプライアンス委員会を設置しています。より公平で透明性の高い組織にするため、社外の委員も含めています。

個人情報保護および企業秘密管理

コベルコ建機グループでは、『個人情報保護法管理規程』や『個人情報保護法ポリシー』、『企業秘密管理規程』を制定し、グループ全体の管理体制を整備しています。また、『個人情報取扱マニュアル』をもとに社内研修を定期的で開催し、個人情報や企業情報の保護意識向上にも努めています。

内部通報システム

コベルコ建機グループでは、企業としての浄化作用を促進し、健全な企業風土を維持するための仕組みとして、「内部通報システム」を設けています。これにより、法令・企業倫理・行動基準に違反することによるリスクの顕在化や、早期に問題を把握し対策を講じることで問題の拡大化を防ぐ効果があります。運用に際しては、通報を行ったことにより通報者が不利益を受けないよう、徹底的に配慮しています。



内部統制

コベルコ建機グループは企業におけるマネジメントの透明性を高めるため、内部統制の整備に尽力しています。国内では社員が一丸となつて、業務の効率性や信頼性アップのために、組織風土の改善・業務の“見える化”を実現すべく諸規程の見直しを行っています。また、海外現地法人でも同様の活動を進めています。

製品の品質と安全

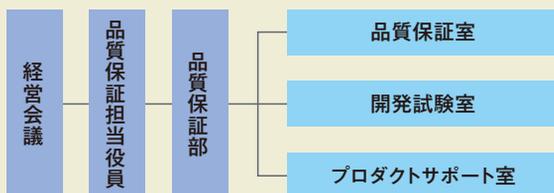
品質保証

品質理念

「ユーザー現場主義」の考え方を重視し、お客さまが要求される品質をつくり込むことにより、お客さまの満足と信頼を得る商品を提供し、社会に貢献するとともに社員ならびに会社の繁栄に寄与する。

- 企業の健全な存立基盤としての品質づくりの推進
- グローバル企業に相応しい品質づくりの推進

品質保証体制と取り組み



品質保証部の活動

品質保証とは、環境に配慮した安全で高い品質の商品・サービスを提供する仕組みを示します。

コベルコ建機グループでは商品企画から開発、生産、販売、サービスに携わる全ての部門の活動が、お客さま価値の最大化、つまり、安全で高い品質の商品の提供を追求しています。これは全社員が品質保証活動を継続的に実践しているということです。品質保証部は、これらの活動が有効に機能し、さらにユーザーの満足度向上につながるよう、品質保証システムの改善活動を推進しています。

品質保証部は、コベルコ建機グループが販売する全ての商品の品質について責任を負っています。安全で高品質な商品をお客さまにお届けすると共に、市場で品質問題が発見された場合には、迅速で的確な対応（是正処置と情報公開、リコール届出など）に努めています。

品質保証室の活動

国内外でコベルコ建機グループが販売する商品が、狙いの品質を達成できるよう、モノづくりのプロセス（しくみ）を監査し、各プロセスの品質保証体制が有効に機能するよう関係部門（サプライヤー、国内外工場群）と協力し、品質改善を推進しています。

開発試験室の活動

コベルコ建機グループが開発する商品が、安全であることを含め狙い通りの品質に達しているか、また、お客さまの要求に合致しているかを厳格に評価。商品が市場に出るまで、開発部門と協力しながら設計品質をつくり込む活動を行っています。

プロダクトサポート室の活動

市場からの情報を開発・生産へ、開発・生産からの情報を市場へ、迅速にフィードバックする、まさに“ユーザー現場主義”の根幹を担っています。技術情報の発信や、トラブルシューティングへの支援など、お客さま／サービスの立場に立った早め・厚めの対応で、問題の早期顕在化・解消に努めています。

合同品質会議

毎年1回、国内外工場、および海外現地法人（中国3、タイ、シンガポール、他）との合同品質会議を実施しています。“メイド・バイ・コベルコ”の合言葉のもと、コベルコ建機グループの全ての工場が、高いレベルでの品質の均質化の実現に向け、互いに切磋琢磨する場としています。

ユーザーへのサポートサービス

フィールドサービス

●稼働機管理システムMERITを利用した顧客サポート

各サービス拠点で管理ユーザー機のアラームや稼働時間／負荷状況などを読み取り、点検や整備の提案を実施しています。それにより、不具合の発生を未然に防ぎ、安定稼働を守っています。

●予防保全活動

フィールドで発生した不具合事例の中で、メンテナンス不足や使用方法不備による不具合情報を積極的に開示し、ユーザーの安定稼働や安全、コスト支援を進めています。

研修・教育

●KCS（コベルコ・キャリア・スクール）

若手サービスマンのスキルアップを目的に、2年間のスクールを開設。現場で働きながら、毎月1週間の集合研修を行なっています。一線で活躍するサービスマン同士の情報交換の場にもなっており、現場での経験や苦労を分かち合い、共に解決していく土壌が育っています。

●e-ラーニング

商品知識力や技術力向上の学習を、だれでも、いつでも、どこでも行なえるように、e-ラーニングシステムを導入しました。社員の学習意欲を高め、幅広い知識が短時間で習得できるように工夫しています。





職場と人をつくる全社活動

コベルコ建機グループの全社活動は、社員が中心です。
社員に愛される企業を実現するため、社員一人ひとりがグループの一員として、
誇りや喜びを感じながら企業活動に携われるように職場環境を整備、サポートしています。

職場づくり

コベルコ建機グループは、「人を大切にする」という観点から、社員に愛され、社内外から信頼される企業を目指し、人事・福利厚生の方において法律に則した社内制度を整えています。さらに独自の対策も加え、健全で働きやすい職場づくりに努めています。



子育て支援制度

2005年度に一般事業主行動計画を策定し、仕事と育児の両立を図るための雇用環境整備を進めてきました。2007年度からの行動計画では、雇用環境の整備に向けた基盤づくりとして、重点課題3点を積極的に取り組んでいます。

重点課題

- ① 出産・育児などに関する情報提供とバックアップに関する体制を整備する。
- ② 職場優先の意識や固定的な性別役割分担などを改善するための措置を講じると共に、年次有給休暇の取得促進のための措置を講じる。
- ③ インターンシップ等を実施することにより、若年者の就労意識の高揚ならびに自立支援に取り組む。

具体的な取り組み

- 男性社員の妻が出産したときの特別休暇(有給)を“2日間”から、“男性社員、女性社員を問わず、満3歳までの子の育児に携わるときに年間5労働日以内”に改善しました。
- 育児休業制度について、これまで最長の場合で、子が“1歳6か月に達するまで”としていたものを“3歳まで”取得可能としました。
- 仕事と子育ての両立を容易にするため、“就業時間等への配慮”ならびに“深夜勤務および一定時間を超える時間外勤務の免除”に関する対象を“小学校卒業までの子を養育する社員”としました。

介護支援の充実

家族の介護を続けるには、思う以上にお金が必要となります。その反面、時間の制約が生まれます。これが、介護をする人の大きな負担となっているのが社会の現状です。そこで、少しでもその負担を和らげられるよう、法定以上の独自基準を設け、取り組みを実施しています。

- 介護休業の充実…最長3年間の休業取得が可能
- 就業時間の短縮…就業時間を1日あたり1時間短縮が可能
- 福祉休暇の利用…介護・看護の場合は1日から利用が可能

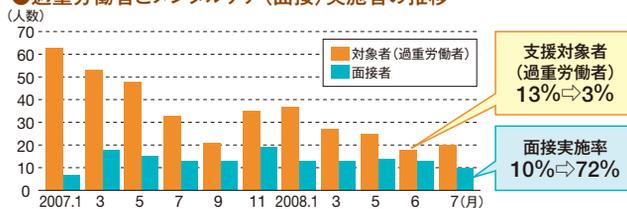
セクシャル・ハラスメント防止の取り組み

セクシャル・ハラスメントは職場環境を悪化させる、大きな問題となります。コベルコ建機グループでは、「社員のための行動手引き」や「労働協約」「就業規則」において、“セクハラ行為は許さない”ことを規程し、セクハラに対する姿勢を示しています。また、事業所ごとにセクハラ相談窓口を設け、相談員を配置して迅速に対応できる体制を整えました。さらに、発生を事前に防止するため、「セクシャル・ハラスメント防止マニュアル」を作成し、周知を進めています。

メンタルヘルスケアの取り組み

広島事業所では、「職場のメンタルヘルス活動と過重労働対策への取り組み」を積極的に行っています。過重労働対策により残業は著しく減少し、過重労働者の割合は、2007年の13%から3%に減りました。また、過重労働者に対するメンタルケア(面接)を充実し、実施率は10%から72%にまで増えています。生産台数は35%増加した期間にもかかわらず、取り組みの効果が得られたことは、喜ばしい結果といえます。この取り組みと結果は、2008年の広島労働局主催「心と体の健康セミナー」で発表、他企業の参加者からも、たいへん参考になったとの評価をいただきました。

● 過重労働者とメンタルケア(面接)実施者の推移



カフェテリアプラン

コベルコ建機グループでは、仕事を充実させるためには、充実した休日を通ることが大切だと考えています。またライフスタイルの多様化により、福利厚生に対するニーズも変化してきました。そこで2007年度より、カフェテリアプランを導入しました。この制度は、福利厚生メニューの中から自分のニーズに合ったメニューを選択し、補助を受ける制度です。財形貯蓄や自己啓発、レジャーなど多種多様なメニューがあり、多くの社員に利用されています。

人づくり

インターンシップ

在学中の専門知識や将来のキャリアを念頭に置いた就業意識の向上や、コベルコ建機グループを含めた建設機械業界への理解、また企業における仕事の意義を理解してもらうことを目的として、2005年度より公募制で毎年夏季に実施しています。昨年は合計18名を東京・広島事業所にて受け入れました。



社員教育制度

●リーダー研修

若手リーダーから、経験豊富な管理職まで、部下を持つ立場の社員向けの研修を行っています。特に初めてのリーダーには、安全管理や業務管理などのマネージメントをはじめ、部下のまとめ方や問題解決の方法など、幅広い内容を掘り下げたレクチャーを行っています。

●エルダー制度

新入社員にマンツーマンで、同じ所属内の若手先輩社員をエルダー（“先輩・年長者”の意）としてつけOJT教育を行ない、職場の戦力として早期に育成することを目差しています。新入社員一人ひとりの個性に合わせた指導と育成が可能になると同時に、エルダーとなった若手社員も、指導の機会を与えることによって業務への理解が深まり、リーダーとしての成長が期待できる制度です。

シニア雇用制度

定年退職後、本人が希望し、一定の基準を満たせば、全員を「シニア雇用制度」により再雇用しています。この制度は、グループ会社共通の制度として導入しており、ベテラン層が持っている技術・技能を定年退職後の職場で引き続き活用することで、円滑な技術継承を推進しています。また、“働き甲斐”を感じることで、職場活力の維持・向上を図っています。

VOICE

自衛消防競技大会 準優勝 自分の職場は自分で守る!

篠原 百合
(しのはら ゆり)

コベルコ建機(株)
調達部加工外注品グループ



コベルコ建機(株)の自衛消防隊は『自分の職場は自分で守る!』を合言葉に発足しました。はじめは何がなんだか分からない状態でスタートしましたが、競技大会出場を一つのステップに掲げ、練習してきました。タイムも評価ポイントとなる競技ではありますが、私は正確さとチームワークを優先に考えて練習してきました。結果は男女とも見事、準優勝に輝きました。この結果はもちろんとてもうれしいことですが、通常の業務ではなかなか経験できない消火訓練や防災知識を実体験を通して学べたことが非常に有意義で、貴重な経験になったと思います。また、2009年元日に行われた広島市消防出初式にも参加させていただき、市民へ広く火災予防の呼びかけができたことをうれしく思うと同時に誇りに思っています。

その他の取り組み

消防活動

防災活動として、社員やリーダー向けの防火訓練を行っています。火災や消火のメカニズム、消火器具の取り扱いなどを学び、訓練しています。また、緊急時の救命措置の手段として各職場へAEDを設置、心肺蘇生についても学んでいます。

広島と大垣の事業所は、地域の消防大会にも出場。地域と密着した活動にも積極的に参加しています。昨年は、大垣事業所が「事業所初期消火大会」に出場し、参加した2チームとも上位入賞しました。広島事業所は「自衛消防競技大会」にエントリーし、2種目で準優勝、2種目で入賞しました。準優勝した2チームは、2009年元日に行われた広島市消防出初式に参加、地域防災団体と共に火災公開訓練で勇姿を披露しました。



体育館で地域の人々と交流

広島事業所・祇園工場体育館では、エアロバイクやダンベルなどを使って体力増進、気分転換などを目的に、社員がエクササイズに励んでいます。このエクササイズは一般参加者も歓迎しており、それぞれの体力に合わせてトレーニングコーチの指導を受けることができます。また30年以上前から、体育館を地域へ開放し、剣道クラブなどが利用しています。地域の人と社員が一緒になって、さわやかな汗を流しています。



献血活動

広島事業所は、献血会発足以来38年間にわたり、年に2回の献血活動を実施しています。昨年、第37回広島県献血推進大会において「金色有功章」を受賞しました。これは、活動年数が20年以上の団体に対し、その功績をたたえ贈られるものです。今後も社会的貢献の一環として献血参加率20%以上を目指し、献血キャンペーンなどの啓発活動を続けていきます。

ソフトボール大会

広島事業所では、体力増強と親睦を兼ねて、2008年10月に社内ソフトボール大会を開催しました。天候にも恵まれ、社員と家族を含めた540名・20チームが参加。普段とは違う環境で、職場の仲間や家族と有意義な1日を過ごしました。



そこに暮らす人々との絆をつくるために 地域と生きる

企業活動の土台となる地域へのさまざまな活動を通じて、住民の方々とのつながりや交流を深めています。地域に根ざした貢献により、象徴的な存在になることを目指しています。



思いを行動へつなげるコベルコ建機CSR基金

国内外で、さまざまな社会貢献活動を支援・実施するべく、2006年度に設立した「コベルコ建機CSR基金」。社内公募し、コベルコ建機グループのCSR活動として、理念に合致した活動に対して支援しています。

TOPICS

豊かな発想や 思いやりの気持ちを育てる コベルコ建機カップ 中学生レスキューロボットコンテスト

毎年、広島大学教育学部が中心となって広島県の中中学生を対象に行われるレスキューロボットコンテスト。2009年から、コベルコ建機グループがCSR基金を利用してスポンサーとして応援することになりました。1月に行われた第5回コンテストには、県内各地の中学校から19チームが参加。被災現場を模した1/16の大きさの競技フィールドで、障害物に囲まれた人形を自作のロボットで救出し、技術と安全性を競いました。ロボットは、パワーや小回りなどの特徴を生かして、障害物を避けたり、押しのけたりしながら救助活動。長いアームで、高い壁の上を越えるという大胆な発想のものもあり、会場からは感心の声も。各チームは保護カバーやクッションなどを使って、人形を衝撃や二次災害から守るさまざまな工夫も披露。音楽を流しながら救助に向かう女子チームもありました。コンテストは、災害救助への関心を高めてもらうと同時に、中学生の柔軟な発想から新しいアイデアが生まれることも期待しています。



広島県立広島中学校
チームバチスタ「命」のみなさん

●優勝チームのコメント
細かい調整で速く正確に「準備期間は短いながらも、丁寧に注意深く調整していきました。特徴は力強く移動できるクローラと、2人同時に運べるリンク機構とベルト装置です。優勝には驚きましたが、とてもうれしいです！」



2009.1.11 中国新聞

●担当者メッセージ

大人が思いつかないような独創的なアイデアと、製作技術のレベルの高さに驚きました。また、プレゼンで各チームの苦労話などを聞くと「ものづくり」の観点ではショベルと同じで、思わずうなずくことも多々ありました。私自身も、ものづくりの楽しさを再認識でき、初心に戻った気がしました。県内のほかの中中学生にも、このロボコンについて知っていただき、ものづくりの楽しさと豊かな発想の創造を引き続き支援したいと思っています。



関藤 大輔
(せきとう だいすけ)
コベルコ建機(株)
品質保証部
プロダクトサポート室
広島事業所CSR委員

1 促進小学校への支援

●地震後の校舎修繕

四川大地震によって、コベルコ建機グループが支援を続けている促進小学校も被害を受けました。校舎の瓦屋根が落ちたり、壁に割れ目ができたりしたほか、梁の揺れによって政府に“危険建物”と指定されて使えなくなった校舎もありました。そこで、屋根や壁などはすぐに改修・補修を済ませ、危険建物は新校舎として建て替えました。



●年越し用品の贈呈

旧暦で祝う正月に向けての恒例行事として、経済的に困っている家庭の生徒33名に食料を中心とした年越し用品を贈りました。また今年は、全校生徒約400名分の文具も贈呈しました。年間を通じた多彩な支援を継続することで、子どもたちの自立心や自尊心の確立を応援しています。定期的な訪問によって子どもたちとの交流も深まり、支援について社内での理解も深まっています。



2 西南交通大学 神鋼奨学金制度

将来を担う優秀な学生を支援するために、2006年度に神鋼奨学金制度を設立しました。年に1回の募集で、今年は20名の学生が奨学生になりました。この奨学金は、学生工作処や学校専門奨学金評審委員会のさまざまな審査があるレベルの高い奨学金制度で、学生たちは日々努力を積み重ねています。奨学金制度が学生の励みや目標にもなっており、モチベーションの向上にも貢献しています。

3 アンコールワット復興を支えるカンボジア人の育成

「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡修復」に共感し、2006年度から支援を実施。毎年、上智大学アンコール遺跡国際調査団のアンコールワット修復にかかわる人材育成を支援しています。



4 フィリピン孤児院の運営・活動維持の支援

前年に続き2008年度も、フィリピン孤児院に対し、運営や活動を維持するための寄付を行いました。CSR基金設立から毎年継続している支援です。孤児院では数十人の子どもたちが暮らしていますが、資金も乏しく厳しい生活環境にあるため、寄付金は食料や飲料水の確保、食堂の設備など、主に生活用品に使われています。将来、この施設の子どもたちが広く世界で活躍することを願っています。



2 西南交通大学 神鋼奨学金制度
1 促進小学校への支援
●地震後の校舎修繕 ●年越し用品の贈呈

アンコールワット復興を支えるカンボジア人の育成
3
フノンベン

ウラジオストク
5
ウラジオストク私立学校への寄付・教材提供

6 石見神楽の伝承・保存

7 水上バイクによる河川での活動

4 フィリピン孤児院の運営・活動維持の支援
マニラ

5 ウラジオストク私立学校への寄付・教材提供

ロシアのウラジオストク市郊外にある私立学校「TERRA」は60人程度の生徒が通う、幼稚園から高校までの一貫学校です。政府からの資金援助はまったくなく、授業料だけで管理までまかっています。そこで、校



内の整備のために2万ルーブル（約10万円）を寄付。また、日本語学習用の日本語の本を寄贈しました。本は図書館に収められ、生徒たちはいつでも読むことができ、学習に役立っています。

6 石見神楽の伝承・保存

西日本コベルコ建機(株)の社員が所属する石見神楽団に活動資金を提供し、伝統文化の伝承・保存を支援しています。石見神楽は島根県の石見地方に伝わる神楽ですが、現在では舞手が少ないことや資金が少ないことなどで、活躍の場が狭まっています。資金援助によりさまざまなイベントや祭り、結婚式などで活躍し、地域の方にも喜ばれています。



7 水上バイクによる河川での活動

熊本県の緑川で、水上バイクを使ったさまざまな活動を行っています。西日本コベルコ建機(株)の社員が所属するチームと協力して、水上バイクの体験会をはじめ、競泳大会の運営サポートやレスキュー活動を行い、実際に人命を救助しました。河川の清掃なども実施し、地域環境の改善にも貢献しています。また、西日本コベルコ建機(株)では、養護学校向けのミニショベル体験会なども開催し、子どもたちの成長と夢をかなえる手助けをしています。



地域活動

ラグビーフェスタ2008

- コベルコ建機西日本(株)(現 西日本コベルコ建機(株))
- 2008年7月6日

神戸製鋼所ラグビー部コベルコスティールーズの選手とファンの交流を目的としたイベントが、神戸製鋼所灘浜グラウンドで開催されました。神戸製鋼所グループとして、また地域貢献として、西日本コベルコ建機(株)も協賛として参加し、ミニショベルを使った子ども向けのゲームコーナーを行いました。反転させたバケットをバスケットゴールに見立ててフリースローするゲームで、収益金16,700円は日本せきずい基金へ寄付しました。



しながわ夢さん橋

- コベルコ建機(株) 東京本社
- 2008年10月11日

大崎周辺での花壇の清掃ボランティア活動で親交を深めた企業80社が参加する「大崎周辺まちづくり協議会」の主催で行う地域展示会「しながわ夢さん橋」。品川区民が集まる年に一度の大イベントに建設機械の実機を出展し、「はたらく乗り物記念撮影コーナー」を開設しました。機械に親しんでいただきながら、区民の方々と親睦を深め、建設機械メーカー・コベルコ建機(株)のPRを図っています。



VOICE

「しながわ夢さん橋」の参加で得たもの

水根 真吾
(みずね しんご)

コベルコ建機(株)
財務部 資金グループ



品川区民が集まる「しながわ夢さん橋」に、CSRグループの一員として、また家族揃って参加できたことは、私の成功体験となりました。当日は予想を超える数の子どもたちで賑わい、お母さんに「帰りたくない!」と訴える声は、この活動への最大の賛辞だったと思います。またイベントを通じて私が働く会社や仲間のことを、家族に知ってもらうよい機会にもなりました。これからも地域住民の方々に喜んでほしい、家族に職場を理解してもらう活動として継続できるよう努力していきます。

西南交通大学への支援

- 成都神鋼建設機械有限公司(中国)

●食事祭 2008年12月28日

先生の指導を受けながら、学生たち自身が日本の料理をつくる食事祭を開催しました。メニューは昨年と同じく「おでん」と、新たに加わった「太巻き」です。レシピは用意せず、現場でのコミュニケーションを大切にしました。何度も試食を繰り返し、真剣に意見を交わしながら、それぞれの料理をつくりあげました。味はさておき、日本の料理や文化への関心や、参加者同士の交流が深まりました。



●スピーチ大会／カラオケ大会 2008年4月24日／12月4日

2回目になる「神鋼カップ西南交通大学日本語スピーチコンテスト」を実施しました。日本語学科での予選を通過した12名の生徒が出場し、審査員として土野財務総監が出席しました。昨年はオリンピックの年であったことから「スポーツから学んだこと」をテーマとした



5分間のスピーチと、自由テーマのスピーチで、それぞれの思いを発表しました。また、日本語を楽しく学びきっかけづくりと、交流の場として、カラオケ大会も開催しました。

近隣の社会見学体験

- コベルコ建機九州(株) 熊本営業所
(現 西日本コベルコ建機(株) 九州支社)
コベルコ教習所(株)
- 2008年11月13日

熊本営業所に隣接する大津養護学校より要望を受け、営業所と教習所の共催で見学体験会を開催しました。工場では建機の製造過程のデモンストレーションとして、鉄板のガス切断や電気溶接の実演を披露。解体機のDVDを放映してその魅力を感じてもらったあとは、ミニショベルの乗車体験も実施しました。営業所の営業方針にも「発展、そして貢献」があり、少しでも地域に役立ちたいと考えています。



さわやか交流会

- コベルコ建機(株) 大垣事業所
- 2008年12月18日

12月の“障害者週間”の期間を中心にして、大垣の各企業とボランティア団体の共同開催で障害者施設との交流会が実施されています。社会貢献の一環として、この交流会に参加しました。まずは障害者の方と大垣の市営公園を清掃し、昼食を一緒に食べながら親睦を深めました。その後は作業所を訪れ、電動歯ブラシの解体を手伝いました。さまざまな方法で地域の方々との交流を図り、地域に根ざした活動を続けています。



HIRO学園交流会

- コベルコ建機(株) 大垣事業所
- 2008年6月30日

ブラジル人託児所から始まったHIRO学園は、ブラジル人学校で国内初の学校法人です。大垣事業所で働くたくさんの日系ブラジル人の子どもたちもHIRO学園に通っていることから、定期的に交流を続けている教習センターの紹介で実施に至りました。ミニショベルやホイールローダーを写生してもらったり、ショベルの説明をしたりしながら、子どもたちとのびのびした交流が実現しました。ブラジルと日本の架け橋の一端になればと願っています。



子どもたちの夢の応援

- コベルコ教習所(株)
- 2008年4月19日

近隣に住む、中学生にミニショベルの試乗体験を行いました。「どうしてもショベルに乗ってみたい」とのご本人の希望で、お父さんから直接依頼を受けたことがきっかけです。通常は講習が立っているため、個別の依頼には対応できないことが多いのですが、ご本人の熱意に感動し何としても夢を叶えてあげたいと思い、いろいろ調整を経て無事実施することができました。ご本人の表情から、夢が叶い大変喜んでいただいた様子がひしひしと伝わりました。後日、ご本人とお父さんからお手紙をいただき、大変ありがたいお礼の言葉をいただきました。今後も建設機械の魅力のPRや、夢をふくらませ成長していく子どもたちの応援を続けていきます。

東京本社前花壇の手入れ

- コベルコ建機(株) 東京本社
- 通年

コベルコ建機(株)東京本社では、会社前や近隣の花壇の清掃や手入れを継続的に行っています。今年で3年目を迎え、継続することで活動の輪が広がってきています。社内でも周知されるようになり、休日に開催した花植えには家族を連れて参加する社員が増え、家族間の交流の場にもなっています。2008年は、年間を通じて9回実施し、地域の住民の方からもいろいろ声をかけていただくようになりました。地味ですが、継続することに意味がある活動ですので、今後も続けていきます。



ショベル陶芸作家を招聘

- コベルコ建機(株) 広島事業所
- 2008年8月

「自然と文明との共存」をショベルを通じて表現する陶芸作家モニコ＝マルセッラ・K・アスキム氏。来日に合わせて広島事業所を案内し、コベルコ建機グループが誇るショベルの製造過程、構造、テクノロジーなどについて紹介しました。また、山口県の山口カーマテリアル(株)様の協力のもと、ショベルを使った自動車リサイクルの現場で作品を制作していただきました。ベテランのオペレーターが手際よく廃自動車を解体・分別する様は、リサイクル大国ノルウェー出身のアスキム氏も初めて目にする光景だったようです。リサイクルに貢献するというショベルの新しい機能を、陶芸作品を通じて業界外の方々へ紹介するよい機会になりました。



地域清掃活動

- コベルコ建機エンジニアリング(株)
- 毎週水曜日(通年)

工場内にあった資料制作部の事務所が、一般企業や民家が集まる地域の一角に移ったのをきっかけに、数名が事務所の清掃日に合わせて周辺道路の清掃を始めました。2004年から毎週続けているため、近隣への認知も広がっています。最近では、近くの企業でも清掃活動が始まったり、地域の方々に声をかけられたり、周囲の意識も変わり実際にゴミの量も減っていて活動の効果を実感しています。今後も地域とともに、地域に喜ばれる活動を進めていきます。



広島市子ども文化科学館 企画展示

- コベルコ建機(株) 広島事業所
- 2008年8月1日~17日

広島市子ども文化科学館の夏休み特別企画「体感!実感!はたらく機械」に出展協力をしました。ミニショベルや大型バケットの展示、週末のイベントで「ショベルの達人」を開催しました。期間中の来場者4万5千人、展示ミニショベルは行列ができるほどの人気で、4千人が



乗車体験しました。「ショベルの達人」では、オペレーターがショベルでの習字やワイングラスタワー積みなどを実演。高度な技術による動きの精巧さに会場は圧倒されていました。

工場を見に行こう

- コベルコ建機(株) 広島事業所/コベルコ教習所(株)
- 2008年8月19日

広島市子ども文化科学館の主催で「体感!実感!はたらく機械! ~はたらく機械の工場を見に行こう~」イベントを広島教習センターで開催しました。50名近くの親子が参加し、ミニショベルとフォークリフトの試乗や、移動式クレーンやホイールローダー、ブレイカーの見学をしました。建設機械に直接触れて理解を深めてもらい、科学技術やものづくりに興味を持ってもらうきっかけになることを目指しています。



西日本展示会 パネル展示・ジオラマ製作

- コベルコ建機西日本(株)(現 西日本コベルコ建機(株))
- 2008年10月25日・26日

CSR活動や事業活動を広く知っていただくため、西日本展示会において、2007年度・2008年度の全社CSR活動状況のパネル展示をしました。このコーナーは前年に好評だったため、さらにスペースを広げて紹介しました。また、「さまざまな現場で活躍するコベルコ建機グループの建設機械」をPRすべく、オリジナルミニチュアを使ったジオラマを社員の手で作りました。専門性が求められる緻密な作業に四苦八苦しながら完成したジオラマは、とても好評でした。



岐阜県ラグビー祭in大垣

- コベルコ建機(株) 大垣事業所
- 2008年5月25日

大垣で生産を開始して16年になり、「ミニショベルのふるさと」としての地位も確立しました。さらに地元の方々にコベルコ建機グループを知っていただき、親しんでいただくために、神戸製鋼コベルコスチーラーズとクボタスピアーズを招待し観戦イベントを開催しました。



当日はラグビー教室やジュニア強化試合、社会人試合などを行い、ラグビーを通じて広く一般の方が楽しめる活動ができました。会社のPRと、地域貢献につながる活動をこれからも工夫していきます。

花いっぱい運動

- コベルコ建機(株) 大垣事業所
- 年間を通じて季節ごと

「事業所内を美しく」の言葉をきっかけに、正門の周りの花壇を整えたことから活動が広がっていききました。入口や通路などに、季節ごとにさまざまな花を植え、緑化運動を推進。来客の方からも喜んでいただいています。水やりは各部署の当番制で、花壇の手入れは昼休みに工場からも事務所からも従業員が集まって行っています。就労環境の整備はもちろんのこと、地域に貢献する意味で、正門の前を通る人に向けて花壇からメッセージを発信しています。



社会に貢献し、人々に夢を与えた功績を称えて CSR賞制度

CSR賞とは2007年度から開始した制度で、社会環境の視点から顕著な功績や貢献を行った組織、団体、人物を表彰するものです。その活動を称え、今後も一層活動に励んでいただけるように、また、こうした活動を広く展開することにより、他の取り組みの模範となり、活性化につながることを目的として、本制度を設立しました。

制度設立に伴いCSR表彰規程を制定し、客観的かつ定量的に評価できる表彰対象事績を決め、適切に運用できるようにしました。事務局にて、当該年度における事績の選定を行い、功労者（受賞者）を決定し、毎年10月の創立記念式典で表彰します。



表彰対象事績は、以下の4つです。

- 事業展開エリアにおけるCSRへの取り組みにおいて、環境対応、地域貢献、人材育成などの顕著な功績をあげたこと。
- CSRの取り組みを通して、当社および当社グループの名誉、またはブランドアップとなるような功績をあげたこと。
- 産業災害やその他の災害を未然に防止、またはこれらの災害に際し人命救助をしたこと。
- 上記に準ずる事績に該当すること。

昨年はCSR賞として、表彰状、トロフィーを贈呈いたしました。

2008年度CSR賞 受賞!

東京本社前花壇の手入れ

受賞者 コベルコ建機(株) 東京本社

2007年度にしながわ環境大賞を受賞した「本社前花壇の手入れ活動」は、その後も活動を続けてきました。「楽しむ」をスローガンに花壇の手入れを継続。秋には大崎地域ボランティア主催「お花いっぱい大崎」にも参画しました。住民の方にも、言葉や応援の声をかけられたり、感謝されたり。自主的に参加してくれる社員と共に、委員会メンバーも活動に、喜び・楽しさ・あたたかさを思いきり感じる事ができました。やさしい気持ちと人々を共鳴させる空気(活動)を発信し、コベルコ建機グループの一員として皆で地域社会へ貢献できたことは、とてもうれしいことです。

今後も、地域社会とのコミュニケーションを醸成させ、コベルコ建機(株)という会社を知っていただくCSR活動は、私たちの企業活動、また社員一人ひとりのパワーの源となってくれと思います。



地域清掃活動

受賞者 コベルコ建機
エンジニアリング(株)



たった3人で事務所周辺の清掃活動を始めました。他のCSR活動と比べると本当に小さな活動ですが、こうして取り上げられ、賞までいただけて夢のようです。

「通勤路が汚れているから、自分たちできれいにしよう!」と始めたのですが、最初はひどいものでした。道端には雑誌やガラスが多数捨てられ、残念というより悲しい気持ちになったのを覚えています。

しかし、続けるうちにタバコなどのポイ捨ても減り、ゴミが少なくなってきました。ここを通る人のマナーが向上したのではないかと考えています。近隣の方に声をかけられることも多くなり、自宅前を掃除される方や、同じように清掃活動をする近隣企業が増えたことは非常にうれしく思っています。若い社員にも「自分たちのための自分たちの活動」と捉え、CSR活動の輪が広がることを期待しています。

西南交通大学 神鋼奨学金制度

受賞者 成都神鋼建設機械有限公司

2年連続の受賞となり大変光栄です。2007年度は促進小学校の支援で受賞しましたが、今回は西南交通大学の支援で、とてもうれしいです。両活動の共通点は、1つの支援先での活動が複数に展開していること。西南交通大学は、奨学金制度設立が最初でしたが、今ではスピーチ大会、カラオケ大会、和食祭など、いろいろな活動を行っています。おかげで学生たちと交流の輪が広がり、直接会話する機会も増え親交が深くなっています。私たちが彼らから良い刺激を受けています。

このCSR賞制度があることで、私たちは他の地域や国でのさまざまな活動を知ることができ、また担当者や直接会えることで、情報交換や交流が広がっています。自分の知見が一気に世界へと広がるきっかけになっていることに感謝しています。今後もCSR活動に励んでいきたいと思っています。



環境にやさしい暮らしをつくるために 地球を守る

コベルコ建機グループは、地球にやさしい製品をユーザーに提供します。構造や機能はもとより、環境保全に役立つ製品を通じて地球を守ります。製造過程でも、合理的で環境に配慮したものづくりを進めています。



環境マネジメントの取り組み

コベルコ建機グループは、地球環境の保全を最重要課題のひとつとして捉え、環境マネジメントの考え方を積極的に取り入れています。事業活動や製品開発について環境保全の観点にのっとりグローバル展開し、継続的な改善を図りながら、より良い体制に整えています。

環境経営理念

コベルコ建機グループは「地球環境改善に積極的に取り組むことが全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命である」と認識したうえで、このかけがえのない地球を守るために、「環境経営基本方針」を制定し、事業活動のあらゆる面において環境に配慮する「環境経営」の推進に努めています。

環境経営基本方針

グループ環境経営の実践による企業価値向上

コベルコ建機グループは、グローバルな環境先進企業を目指して

- ①環境に配慮した開発・生産活動
- ②製品・サービスでの環境への貢献
- ③社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすとともに、企業価値を高めます。

行動指針

①環境に配慮した開発・生産活動

地球温暖化対策(省エネルギー型商品)・循環型社会構築(リデュース・リユース・リサイクル)・有害物質削減(積極的取組)・環境負荷の低減(低騒音・低振動等)

②製品・サービスでの環境への貢献

製品・サービスにおいて高い環境品質を継続・維持し、カスタマーサポート活動を展開して、地球環境の改善に積極的に取り組む。

③社会との共生・協調

- 環境関連法規・条例・協約を遵守し、社会との協調を進める。
- 環境関連情報を積極的に開示して社会との共生・協調を進める。

③全員参加による取り組みの展開

- コベルコ建機グループの一人一人は、企業活動のみならず、社会の一員として環境改善に積極的に取り組んでいく。

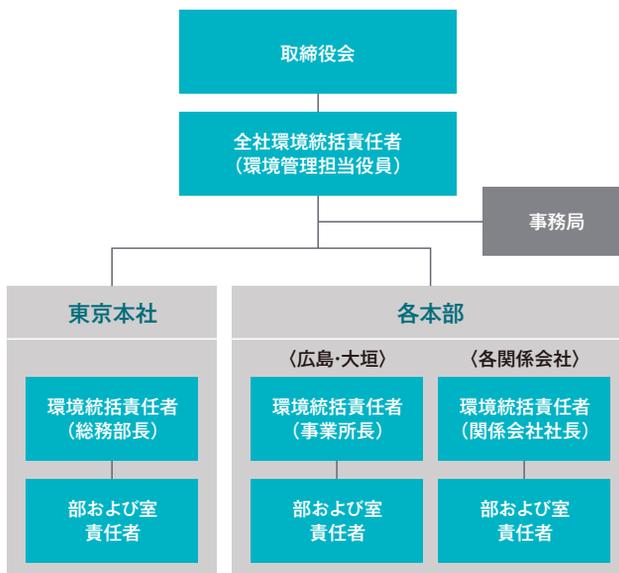
- 環境学習・教育を継続的に実施する。

④リスク管理の徹底

環境管理体制の維持・強化とリスク低減に向け、常に責任の所在を明らかにし、組織的、計画的な取り組みを行う。

環境管理体制

コベルコ建機グループでは、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。また、全社の環境管理を統括する環境管理事務局を設置することにより、環境管理体制の強化と全社的な環境マネジメントを実施しています。



環境リスク管理・環境監査

コベルコ建機グループは、広島事業所および大垣事業所を含む全ての生産工場および拠点に環境リスク管理体制を構築し(国内各拠点から順次構築予定)、環境監査の強化に努めています。大気、水質、振動、騒音、廃棄物、化学物質、エネルギー、危険物、施設・設備等の各チェック項目を設定。各事業所において対象項目が関係法令等に定められた基準等を満たしているか、定期的な環境監査を行っています。

| チェック項目 | 該当法規 |
|--------|---|
| 大気 | 大気汚染防止法 / 悪臭防止法(大垣地区は条令) |
| 水質 | 水質汚濁防止法 / 下水道法 |
| 振動 | 振動規制法 |
| 騒音 | 騒音規制法 |
| 廃棄物 | 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 |
| 化学物質 | PRTR法 |
| エネルギー | エネルギーの使用の合理化に関する法律 地球温暖化対策の推進に関する法律(広島地区のみ) |
| 危険物 | 消防法 / 高圧ガス保安法 |
| 施設・設備 | 大気汚染防止法 / 水質汚濁防止法 岐阜県公害防止法(大垣地区のみ) 大垣市公害防止協定(大垣地区のみ) 高圧ガス保安法 / 工場立地法 |

環境管理規程

コベルコ建機グループでは、環境関連法令の遵守はもとより、環境マネジメントシステム規格(ISO14000シリーズ)の要求にのっとり、環境保全が企業の社会的責務であるとの自覚に基づいた上で、環境に十分配慮した事業活動を行っています。環境管理規程を定め基本的事項と本社部門および各事業所のそれぞれの果たすべき役割を明確にし、規程をもとに、グループ全体での環境活動を推進しています。

環境管理事務局の活動

環境管理事務局は環境管理規程に定めた役割をもとに、毎年活動項目を策定・計画し、グループ全体の環境活動を推進しています。

- 各拠点での監査結果に基づく対応、指摘事項の改善
- 環境にかかる内部監査
- 年次環境保全活動報告書の作成
- 環境報告、研修計画の推進
- 関連会社等のISO14001認証取得支援

環境教育と資格取得の推進

コベルコ建機グループでは、広島事業所および大垣事業所で環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証を取得。これをきっかけに、環境マネジメントやコンプライアンスの意識向上と理解を深めることを目的に、全従業員を対象とした環境教育を実施しています。また、社員には環境系資格の取得を奨励し、資格取得に向けた教育も行っています。

| 教育区分 | テーマ | 対象者 | | |
|--------------|--------------|-----------------------|-------------------------------|-------------|
| | | 区分 | 教育内容 | 方法 |
| 環境への自覚 | ISO14001概要 | 新入社員 | JIS Q 14001環境マニュアル | 講義 |
| 内部環境監査力量アップ | 監査技法 | 内部環境監査員 | 環境マニュアル 関連規程他 | 講義 |
| 下請負契約者 | 環境影響への理解 | 特定の下請負契約者 | 環境方針の説明 | 講義 または手紙 |
| 緊急事態訓練(模擬訓練) | 緊急事態対応の訓練 | 各職場の代表者 | 緊急事態対応手順書 | 模擬訓練 |
| 環境への自覚 | 環境マネジメントの重要性 | 事業所長 部門長 環境管理委員 | 環境報告書 環境経営計画 (神戸製鋼グループ) | 講義 |

VOICE

開発・生産に欠かせない 企業の環境対策に知恵を絞る

花本 孝雄
(はなもと たかお)

コベルコ建機(株)
広島事業所 環境管理事務局



私たちは毎月、法規改正や環境数値測定結果、省エネ活動、騒音・臭気対策など多岐にわたる議論をしていますが、加えて、社員教育や広報活動、関係官庁への届出など、後回しにできるものは何一つありません。大変かと聞かれれば、もちろん大変です。しかし、環境管理は生産活動を続ける企業にとって不可欠なものだと認識し、日々努力しています。

これまでコベルコ建機グループは環境に配慮した製品開発で、社会に高く評価されてきたと思います。しかし、今や製品開発と生産活動における環境対策や省エネ活動は、切り離せない重要な関係にあり、私たちもより高いレベルを目指した活動を続けていきたいと思っています。

化学物質の管理と削減

●アスベスト対策

労働安全衛生法や廃棄物処理にあたっての環境省の指針などに基づき、適正な代替化を進めています。

建築物については飛散性石綿に対する対策工事をすべて終了しています。石綿飛散が懸念される吹付材・貼付材についても、計画的に対策を実施しています。

●VOC削減

VOC対策として、有機溶剤の少ない塗料への変更を進めています。2007年8月からは、VOC従来比33%減の下地塗料を採用しました。

騒音・振動の低減・防止

工事騒音・振動が周辺に及ぼす影響を調査し、そのデータに基づいて、送風機、圧縮機、破砕機などの既設騒音発生源に多面的な対策を実施しています。

タイ新工場建設

コベルコ建機グループは2008年7月にタイ・ラヨン県に油圧ショベルの生産工場を新たに立ち上げました。この工場では『明るい・静か・クリーン・涼しい』を目指し、①外壁をスリット構造にし天井と床の温度差を利用した自然換気機構 ②工場の床・壁の色を白にし、自然光を取り入れる ③大雨などにより、工場排水が直接外部へ流れないように周囲を溝でおおう などのアイデアを採用。コベルコ建機グループが考える“環境に配慮したものづくり”を形にした工場です。



①自然換気するためのスリット構造の壁



②白い内装と自然光を取り入れた明るくクリーンな工場



③大雨などによる工場排水の外部流出を防ぐ溝

廃棄ゴムクローラ類のリサイクル推進

(社)日本建設機械工業会は、2008年12月1日より廃棄物処理法にもとづき、建設機械走行装置に使用されているゴムクローラ類の適正廃棄処理や再資源化を目的として、廃棄ゴムクローラ類の広域リサイクルシステムを始めました。

本システムは、環境省の認定ルートで処理されるものであり、環境負荷軽減だけでなく、コンプライアンスにもつながるものです。

コベルコ建機グループも会員15社の一員として、本システムをお客さまにご紹介し、積極的に推進しています。



社用車ハイブリッド車への切り替えとCO2削減量

自動車から出る排気ガスは、地球温暖化の大きな原因のひとつです。コベルコ建機グループは、ガソリンエネルギー使用の抑制と、排気ガス排出の軽減を進めるため、グループ各社の営業車を順次ハイブリッドカー「プリウス」に変更しています。

現在、全社の乗用車のうち、約4分の1がプリウスで、効果はCO2排出量の削減だけにとどまらず、ランニングコストについては約半分で、経費の節減にもつながっています。



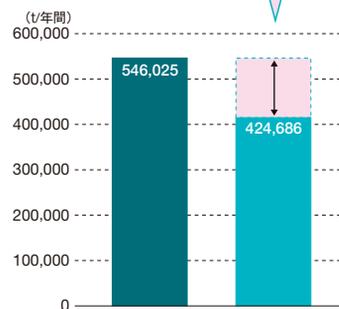
| 事業所 | 台数 | CO2削減効果 |
|------------------|------|-----------|
| コベルコ建機(東京、広島、大垣) | 28台 | 1,512 t/年 |
| 販売拠点 | 104台 | 5,616 t/年 |
| その他グループ企業 | 2台 | 108 t/年 |
| 合計 | 134台 | 7,236 t/年 |

※2008年度当社試算値

環境にやさしい製品開発

コベルコ建機グループは2006年6月に燃費を20%低減したアセラ・ジ奥斯ベックを販売開始しました。その結果、2008年度には次の通りCO2排出量の低減を実現できたことになります。

CO2削減量=121,339 (t/年間)
これは、日本の平均家庭約22,000世帯が1年間に排出するCO2と同じ量です。

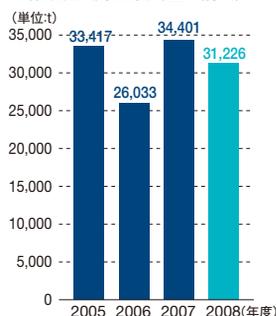


■ 旧モデルを販売し続けた場合のCO2排出量
■ 現行モデルのCO2排出量
※2008年度工場出荷ベースによる当社試算値
※全国地球温暖化防止活動推進センター発表の数値より計算

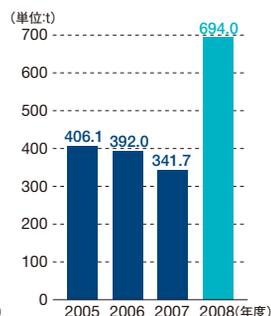
廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

廃棄物の発生を極力少なくするとともに、可能な限り再資源化するように努めています。今後も引き続き再資源化の技術開発を進めるなど、廃棄物の発生抑制を一層進捗させていきます。

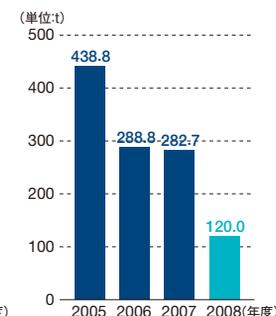
●投入資源の削減 (祇園工場水道使用量の削減)



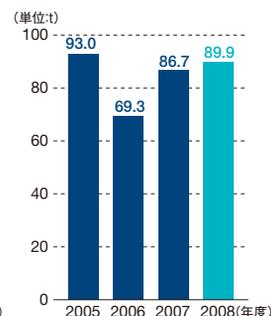
●リサイクル化の推進※1



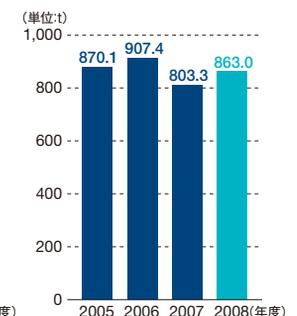
●製品梱包材の削減※1



●一般廃棄物排出量の削減※1



●産業廃棄物排出量の削減※2



※1…広島事業所と大垣事業所の合算値

※2…祇園工場の排出量

事業活動に伴う排出量

■コベルコ建機(株)広島事業所

所在地:広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号
 主要製品:建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

□大気

| 項目 | 設備 | 規制値 | 実測値 |
|---------|------|------|-----|
| NOx | 該当なし | 該当なし | — |
| ばいじん | 該当なし | 該当なし | — |
| ダイオキシン類 | 該当なし | 該当なし | — |

□水質

| 項目 | 規制値 | 実測値 |
|---------|------|-------------------|
| COD | 該当なし | — |
| SS | 600 | 2.5 ¹⁾ |
| 油分 | 5 | 1.2 ¹⁾ |
| ダイオキシン類 | 該当なし | — |

1) 平均値

□化学物質

| 物質 | 排出量 | | | | 移動量 | | 主な使用工程、使用目的など |
|---------|---------|------|----|------|-----|----------------------|---------------|
| | 大気 | 公共水域 | 土壌 | 所内埋立 | 下水道 | 事業所外 | |
| キシレン | 155,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30,900 ²⁾ | 塗装 |
| トルエン | 20,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9,500 ²⁾ | 塗装 |
| エチルベンゼン | 47,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,690 ²⁾ | 塗装 |

2) 08年度より廃シナーの再生利用廃止 取扱物質総数 4

■大気データ
 ※規制値:大気汚染防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法
 ※単位:NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³
 ※規制値は、対象施設ごとに決められています。
 ※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
 硫酸酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素、およびフッ化珪素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン

■水質データ
 ※規制値:水質汚濁防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは市下水道条例、協定値

■コベルコ建機(株)大垣事業所

所在地:岐阜県大垣市本今町1682番地の7
 主要製品:建設機械及び部品

□大気

| 項目 | 設備 | 規制値 | 実測値 |
|---------|------|------|-----|
| NOx | 該当なし | 該当なし | — |
| ばいじん | 該当なし | 該当なし | — |
| ダイオキシン類 | 該当なし | 該当なし | — |

□水質

| 項目 | 規制値 | 実測値 |
|---------|------|-------------------|
| BOD | 30 | 1.9 ¹⁾ |
| SS | 40 | 1.4 ¹⁾ |
| 油分 | 5 | <1 ¹⁾ |
| ダイオキシン類 | 該当なし | — |

1) 平均値

□化学物質

| 物質 | 排出量 | | | | 移動量 | | 主な使用工程、使用目的など |
|---------|--------|------|----|------|-----|-------|---------------|
| | 大気 | 公共水域 | 土壌 | 所内埋立 | 下水道 | 事業所外 | |
| キシレン | 36,591 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,672 | 塗装 |
| トルエン | 6,350 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,398 | 塗装 |
| エチルベンゼン | 10,005 | 0 | 0 | 0 | 0 | 945 | 塗装 |

取扱物質総数 4

※単位:mg/ℓ、ダイオキシン類はpg-TEQ/ℓ
 ※ND:分析定量限界値以下(検出されない)
 ※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下(検出されない)もしくは規制値以下。
 pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロペン、チラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質
 ※単位:kg

2008年度取り組み項目

| 項目 | 事業所 | 内容 |
|-------------------|------------|--|
| 省エネ活動 | 全社 | ●昼休みの照明の消灯、エアコンの温度設定管理・フィルタの清掃等●社内会議は、可能な限り「テレビ会議」を実施 ●紙の再利用(裏紙)推進●社用車にハイブリッド車「プリウス」を順次導入 |
| | 広島本社・大垣事業所 | ●工場天井灯の省エネタイプへの切り替え●輸送手段、ルート等の見直し・変更 |
| | 大垣事業所 | ●エコ・キャンペーンの勉強会(会社及び家庭でできるエコ活動)を開催 |
| | 部品センター | ●自動倉庫のモータをインバータ制御方式に変更●省エネタイプの自動販売機を利用●廃ダンボール、緩衝材の再利用 |
| | 成都神鋼 | ●工場内に節電装置を設置●廃ダンボール、緩衝材の再利用 ●輸送手段、ルートルート等の見直し・変更●風力を利用した排気ファンに変更 |
| | 杭州神鋼 | ●工場内冷房に気化熱を利用した冷気発生装置を導入●エネルギー資源管理手順の制定 ●LPガスの有効利用により消費エネルギーを削減●協力会社からの部品輸送を集荷輸送に変更 |
| 廃棄物削減 | タイ新工場 | ●新工場に自然換気機構を取り入れた外壁を使用●自然光を取り入れ、照明設備の節電 |
| | 全社 | ●ゴミの分別とマイカップ運動の推進 |
| 化学物質管理 | 広島本社 | ●産廃プラスチック、廃油、リサイクル化活動の目標設定と実行●紙ゴミなど一般廃棄物の1%削減目標の設定と活動 |
| | 大垣事業所 | ●入荷部品の納入荷姿改善(専用通箱の推進) ●「廃プラスチック」(PRF化)、「木屑」(ボイラー燃料)として再利用を実施しており廃棄物の分別を徹底 |
| | 東京本社 | ●PCB廃棄物の適正管理と届出を徹底 |
| 環境負荷低減対策 | 広島本社 | ●PRTR法に基づく届出 |
| | 大垣事業所 | ●2008年は再塗装「0」に向けた塗装品質改善プロジェクトを推進 |
| | 杭州神鋼 | ●有資格者による適正処理を徹底 |
| | 東京本社 | ●グループ全社にて内部環境監査を実施し、産業廃棄物の適正処理、危険物の適正保管・処理を徹底 |
| | 広島本社 | ●広島県条例に基づき、オキシダント情報発令時におけるVOC減少計画書を作成し、対応 ●臭気対策として、消臭剤を噴霧できる設備を下地塗装ライン、完成車塗装ラインに設置 ●出荷場、振動測定装置を設置し、監視測定を開始 |
| | 大垣事業所 | ●小物部品塗装設備の更新 |
| 揮発性有機化合物(VOC)削減対策 | 成都神鋼 | ●パテ研磨粉塵とショット粉塵の回収・適正処理の実施●リン化物の使用廃止●電動フォークへの切り替えを推進 |
| | 杭州神鋼 | ●工場排気ガスの浄化処理 |
| | KIT | ●再生部品の利用推進 |
| | 広島本社・大垣事業所 | ●揮発性有機化合物の少ない塗料に一部変更 |
| | 杭州神鋼 | ●製品塗装から部品塗装へ切替 |
| 水質に関する負荷低減対策 | 東京本社 | ●グループ全社にて内部環境監査を実施し、排水の確実な処理を徹底 |
| | 広島本社 | ●水没機密テスト時のオーバーフロー水の再利用 |
| | 販売拠点・KIT | ●重機洗車に伴う排水の適正処理、油水分離槽の設備点検・清掃の実施 |
| | 成都神鋼 | ●汚水を再生し、洗車と緑化用に使用 |
| 環境関連製品・技術開発 | 杭州神鋼 | ●塗装で生じた排水を有資格者にて適正処理 |
| グリーン調達 | 広島本社 | ●ハイブリッドショベルを09年度市場投入すべく、商品化の推進(従来比、燃費50%減) |
| グリーン購入について | 大垣事業所 | ●物流、梱包費用の分析、改善活動を実施 |
| 環境意識向上のための取り組み | 東京本社 | ●定期巡回便(ミルクラン)を実施 ●クールビズ・ウォームビズ啓蒙カード/ポスターの製作、及び配布 |



資源循環型の建設業界を担う、環境リサイクル機械

コベルコ建機グループは、環境対応型の建設機械の開発に力を入れてきました。解体の現場をリサイクル過程の一部と考え、独自に開発した環境リサイクル機械など、さまざまな形で地球環境の保全に貢献しています。

さまざまな分野で活躍する
コベルコ建機グループの
**環境
リサイクル
機械**

リサイクルフローをトータルサポート
国内外ですます重要度を増している金属スクラップのリサイクル。生產品質、処理能力、環境対策など、多視点からの高度な要求に応え、処理工程・流通形態を深く知ることで実現したラインナップです。

各役割で最大限のパフォーマンスを発揮
建設副産物を再利用できるように、分別解体を効率化させる建設機械です。早くから建造物の解体作業をリサイクルの一環と捉えてきたからこそできた高性能で、信頼性の高いマシンの数々です。

ホイール式スクラップローダ
[HK350W]

開閉クランプアーム付解体機
[SK210D]

マグネット
[SK135SRD]

超ロングアタッチメント
[SK350DLC]

資源セパレータ
[SK70SRP1]

セパレートブーム
[SK135SRDLC]

自動車解体専用機、30周年

1979年、コベルコ建機グループが世界初の自動車解体専用機を開発。これによりELV(使用済自動車)の再資源化が機械化され、効率化、安全性向上をもたらしました。

開発以来30年、コベルコ建機グループは現場の声を取り入れながら、自動車リサイクルの効率化を常に追求してきました。市場では、リサイクル資源としてアルミなどの非鉄金属が注目されるようになり、それらを細かく分別する精緻な作業を可能とする技術が求められてきました。そこで、コベルコ建機グループは金属解体ニブラー、独自形状の開閉式クランプアームを開発しました。非鉄金属の取り出しをはじめ、部品の分別、仕分けなどの精緻作業を可能とし、再資源化に貢献しています。現在では、リサイクルに適した各種使用済製品や複合廃棄物の分別作業など、さまざまな用途で活躍しています。



YS750自動車解体機
1979年



SK07自動車解体機
1985年



ACERA SK120
エンジン解体専用機
1991年



SK135SRD
マルチ解体機
2008年

環境展への出展

毎年、東京ビッグサイトで開催されるNEW環境展。地球環境の保全活動に取り組むコベルコ建機グループも、新技術・新発想を駆使した環境リサイクル機械を毎年出展しています。年々増加する来場者の方々からも好評をいただき、励みになっています。



コベルコ建機グループはチーム・マイナス6%に参加しています



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

私たちのチーム・マイナス6%

- 営業車のハイブリッドカー化
- 省エネシールで意識の向上
- オフィスのゴミの削減
- COOL BIZ/WARM BIZ



SK950DLC
開発ストーリー

100t級大型解体機、完成までの苦闘を追う

信念と意地と情熱が
新発想の解体機へと導いた

ゼロから始めた大型機開発。納期は「1年後」

SK950DLCの開発は突然始まった。油圧ショベルをベースマシンにした社上最大100t級大型ビル解体専用機。建設機械メーカーとしての威信をかけたこの製品開発は、得意先の「先物買い」によって、通常のステップを大幅に飛び越えてスタートした。引き渡しは1年後。開発メンバーに衝撃が走った。まだ、設計すらできていなかったのだ。

1977年、日本に初めてニブラー（油圧式圧砕機）をもたらし、新たな潮流を先導したのはコベルコだった。「鉄球で叩き壊す」方式から、「挟んで壊す」時代を切り開いたという自負がある。既存のクレーンをベースに開発したSK3500Dは、ギネス世界記録にも認定された。しかし、油圧ショベルベースの大型解体専用機はまさに未開の領域だった。

2003年春、大型油圧ショベルSK850の開発に着手したが、先に解体機に買い手がついたことで事態は急変。解体専用機SK950DLCを先行させることになった。長年の上客の期待を裏切るわけにはいかない。開発を仕切った北川雅典は振り返る。「解体機の開発はベースマシンの機構を踏襲するのが普通。しかし今回はゼロからつくる必要に迫られた。しかも後発。性能は他社製品を上回らないといけない。限られた時間の中で、プレッシャーは並大抵ではありませんでした」。



■開発メンバー（左から）

村岡大輔（むらおかだいすけ）
環境特機開発部
特機開発グループ
北川雅典（きたがわまさのり）
ショベル開発部
中大型ショベル開発グループ
中村崇伸（なかもわたかのぶ）
生産設計部
構造系設計グループ
中谷光夫（なかつたみつお）
生産設計部
構造系設計グループ
川本健二（かわもとけんじ）
生産設計部
装備系設計グループ

多くの新技術を搭載し、他社製品と差別化

開発者たちは知恵を絞り、いくつもの新技術を搭載した。代表は国内初の新機軸、油圧式脱着ピンの開発だ。ビル解体の仕事は解体機の組み立てから始まる。クレーンで吊り上げたアタッチメントを数百キロもあるピンで固定するのは命がけの大仕事で、丸一日を費やすことも少なくない。SK950DLCは油圧シリンダー内蔵のピンを搭載し、作業をスイッチひとつで行える。アタッチメント担当の中村崇伸は言う。「作業中は次々に廃材が落ちてきますから、シリンダーがむき出しでは壊れてしまう。ピン内部にシリンダーを取め、しかも衝撃に耐えられる構造を迫りました」。前代未開の試みだった。完成までには何度も試行錯誤を繰り返した。

山奥の現場に長時間とどまることが多い大型ショベルと違い、解体機は都市を短いサイクルで移動する。要領よく分解して運ぶことが重要だ。象徴的なのは、クローラの幅を伸縮させる機能。ライバル機の多くが半日かけてボルトの脱着をするところをSK950DLCはワンタッチで伸縮可能にした。「クローラにショベル並みの耐久性を持たせるには緩衝装置が不可欠ですが、伸縮機構を搭載するとスペースが足りない。両方をいかに配置するかが工夫のしどころでした」と足回りを担当した中谷光夫は語った。

好調な売れ行きが優れた商品性を裏付ける

特許を取った積層ウエイも、目指すところは同じだ。一度に運ぶのが難しい数十トンのカウンターウエイを3つに分け、スタイリッシュな外装パネルで覆った。「今回開発したのは、外装はそのまま、しかも簡単に着脱できる、実用性と外観を両立させた新方式」と、手かけた川本健二は胸を張る。そして、ニブラーのエキスパート村岡大輔は言う。「初号機を納入した後、別のお客さまのニーズを受けて基礎解体用のニブラーを新規開発しました。基礎解体用ニブラーに鉄筋カッターをつけ、一方では軽量化。納期に間に合わせるため、図面を書きながら部品を発注したこともありました」。

かくして無事完成したSK950DLC。ライバル機よりも割高なこのマシンを、その後、主な解体業者が相次いで購入したことも、優れた商品性を物語る事実だといえる。



内蔵油圧式脱着ピンは、抜き差しも時間が取られない。これに手間取る他社製品との差別化が図れる

安全かつ、見た目も美しい積み上げ式カウンターウエイは、特許を取得している

高さとしなやかさを兼ね備えたSK950DLC超ロング解体機

社員から見たCSR活動

コベルコ建機グループのCSR活動を担ってきた社員が、活動を通じて感じた思いをご紹介します。

あなたにとって、CSR活動とはどんなものですか？

富田 花植え活動中にお子さんを連れとお母さんから「市役所の方ですか？違うのであれば、いつもきれいにしてくださってありがとうございます」と声をかけられました。人や社会に貢献することの意味を実感できる活動でした。また、「しながわ夢さん橋」では、CSRメンバーが一丸となり、充実感を得ることができました。

木地村 CSR活動をすることで、社会に対する目線が変わりました。以前は仕事と、自分の興味あることにしか関心がありませんでしたが、新聞の社会面記事に目を通したり、地域情報誌を読んだりするようになりました。こうすることで、社会から求められる責任、コンプライアンスなどに注目し、自分なりに考えることが多くなったと思っています。

渡邊 コベルコ建機CSR基金では、国内外で活動されている数々の団体に、基金という形で支援を実施してきました。私たちは、ただお金だけで支援するというはせず、必ず現場で様子を見てくるので、その活動の大切さや支援の必要性を直接、肌で感じられます。やりがいや手ごたえを感じる活動でした。



吉川 夏渚子 (よしかわ かなこ)
コベルコ建機(株)
企画管理部広報秘書グループ
広報の立場からCSR活動を側面から支援

吉川 社会に対して興味が芽生えてきました。広報として毎日建設機械関連ニュースはかかさずチェックしていますが、最近では社会面にも目を通すようになりました。社会に目を配ることで、世の中の情勢や時事等について少し把握できるようになり、まだ社会人2年目ですが、社会人としての道徳観や倫理観が少しずつ培われてきたように思えます。常に広い視野を持ちたいと

考えていましたが、こうした活動がきっかけになるとは思いませんでした。

田中 仕事柄、汗を流したり、短期集中で何かをつくり上げたり、ということがありません。真夏の力仕事などは、体力的にはきつかったですが、普段は味わえない達成感が得られました。また、子どもたちの笑顔や興味津々の目を見て、充実感も得られました。休日を3日割っているのですが、これが全く苦になりませんでした。CSR活動は、やればやるほど積極的にやりたくなっていく不思議な活動のようです。

活動するときに大切にしていることはありますか？

富田 まずは、楽しむこと。次に、活動や参加に対して決して押し付けにならないように気をつけました。個人の心や気持ちのなかで何かを感じ取ってもらえるよう意識し、自発性を尊重したつもりです。「やってもらえることは幸せなこと。やってもらえないことは当たり前」と思ったら気持ちも楽に、

楽しく活動できました。

渡邊 CSR活動は企業の社会的責任という仕事であり、ただのボランティアでなく、事業活動のひとつだということを意識しています。会社が行う活動ですから、当社のプレゼンスを高めていけるような行動を心がけています。

吉川 花壇の手入れは、普段接することがない方々と会うチャンスですから、楽しく会話することを心がけています。黙々と作業し

ても清掃はできますが、それでは活動自体が湿ってしまうような気がします。そこで私は、皆が元気になるような会話をし、明るい雰囲気をつくるようにしています。また、パネル製作では「事実を伝えること」に細心の注意を払いました。事実と予想(想定)はキッチリと区別しなければなりません。



渡邊 薫 (わたなべ かおる)
コベルコ建機(株)
企画管理部経営企画グループ
兼CSR推進グループ

CSR活動で印象に残ったことや、うれしかった出来事は？

吉川 CSRのPRパネルを製作した際に、社内情報などで知りえないさまざまな活動が実施されていることを知りました。特に中国四川省の大震災では、情報を集めるうちにその甚大な被害状況を肌で感じることができました。会社がすぐに従業員を含めた義援金を募ったり、いろいろな支援を打ち出したその姿勢に本当に感動しました。



木地村 修 (きじむら おさむ)
西日本コベルコ建機(株)
レンタル市場開発部
販売促進グループ
同社CSR活動の取りまとめ役

木地村 コベルコ建機中部(株)(現 西日本コベルコ建機(株)中部支社)におけるCSR活動はまだまだ模索段階で、手探りしながら活動している状況ですが、新しいことを取り入れるということに喜びを感じています。秋の展示会ではパネル展示を行いました。CSRパネルはホッと一息つける場になり、「こんなこともしてたんか」と感想をいただきました。まず第一歩。小さくても新しい

香りの風が吹き込まれたことに、喜びを感じました。

田中 中学生のロボットコンテストで、審査委員をさせていただきました。時間をかけて、こだわりを持って作り込んだレスキューロボット。機能はよく考えられていて、恐らく練習ではうまく動いたのでしょう…しかし本番では、わずかなミスや不運でロボットがまったく動かない。時間が過ぎる。子どもたちの焦りが伝わってくる。「あれだけががんばったのに…」そんな心の声と涙が届きそうでした。そんな中で実力を発揮する子どもたちもいる。笑顔と落胆の顔。こういう青春もあるよなあと感じました。

失敗談などがあれば教えてください。

渡邊 キリスト教徒が国民の9割を占めるフィリピンの孤児院には、クリスマスまでには寄付金を届けたいと考えていましたが、支援は10月頃に決定していたものの、手間取っているうちに12月に入ってしまいました。クリスマスまでになんとか現地へ送ることができましたが、年末の忙しいこともあり、実際には、現地で入金を確認いただけたのは年明け9日であったため、早く実施しておけば大変悔やまれました。

田中 こども科学館の展示用に、ミニショベルとバケットを建物の中に入れました。図面上では入るはずなのですが、そううまくいかず…。切り



田中 精一 (たなか きよかず)
コベルコ建機(株)
技術管理部
知的財産グループマネージャ
広島CSR委員

返し、やり直し、繰り返し…。館内の床や壁、設備を壊さないように細心の注意を払いながらやっとのことで入れました。また、翌日様子を見に行くと、バケットのツースとツースの間に保護カバーがはめ込まれていました。子どもの足がツース間に挟まり、抜けなくなるという事態が発生したとのこと。幸いケガはありませんでした。安全には気をつけていたつもりが、抜けがあった。大いに反省しました。

これからどんなCSR活動がやりたいですか？

富田 建設機械は人類が便利に生きるために、環境をつくりだすための道具である反面、山を切り開き、自然をなくしていくこともあります。そんな

建設機械をつくり続けるメーカーである限りは、植林など地球に償うようなやさしい活動ができればと思います。それと、無理せず実力・身の丈に見合った活動が継続されて取り組みればよいと思います。

渡邊 CSR活動は、みんなの活動だと思っています。若手が中心に活動するのもいいのですが、年の離れている社員や、他の拠点の方とも一緒に活動できる機会が増えればよいと思います。

吉川 いろいろな人と出会い、交流の輪を広げ、成長するきっかけになるようなCSR活動に参加していきたいです。「東京本社前花壇の手入れ」のように、交流の輪を広げられるような、また達成感を皆で共有できるような活動や、啓蒙活動なども進めていきたいです。

木地村 これまで同様に、小さなことからコツコツとですが、地域との交流が持て、社員が参加できる活動をやってきたいです。AED設置や、普通救命講習の受講などに関心があります。活動は多くできないのが現状ですが、ひとつずつ、小さくても社員が参加でき継続できる活動を行いたいです。

田中 基本スタンスは変えず、これからの担う子どもたちに、理系の楽しさ、モノをつくり出す製造業・建設機械のおもしろさ、油圧ショベルの魅力を感じ取ってもらいたい。また、2008年度は形になりませんでしたが、発明協会から依頼を受けている理科の出前事業(中学、高校)を形にしたいです。将来、広島工場が新拠点に移転したら、ここに子どもが機械に触れることができる常設設備を設けて、工場見学と合わせて製造業と機械の魅力に触れてもらえるようにできると素晴らしいな、と想像しています。



富田 隆司 (とみたりゅうじ)
東日本コベルコ建機(株)
環境ビジネス部担当課長
前東京CSR委員会 委員長

編集後記

ここ数年は、気がついたら散っていた桜ですが、今年は長く咲いていたおかげでじっくり桜見物ができました。桜は日本人の心を和ませてくれますね。3回目の出版となった今年の社会環境報告書も、皆さまの気持ちを和ませることができましたでしょうか。毎年咲く桜のように、コベルコ建機グループのCSR活動も、いつまでも継続してまいります。また、温暖化で桜が咲かなくなるようなことがないように地球環境も守っていききたいですね。でないと、花見ができなくなります(笑)。

全社CSR委員会 委員長
錦野 幸一

2008年は北京五輪、年が明けた2009年はWBC(ワールドベースボールクラシック)と続き、スポーツをきっかけに一致団結した応援や盛り上がりが多い年でした。何かをきっかけにして気持ちが一つの方向へ向かうことは大変素晴らしいものだと感じました。

社会環境報告書はおかげさまで今年で3回目の発行となりました。いろいろなきっかけが、いろいろな活動を生み出しました。この報告書が、手に取った方々にとっても何かのきっかけの一つになればと思います。

総務部 CSR推進グループ
宮尾 卓司

今まではボランティアに興味はあったものの、なかなか行動することができなかったのですが、仕事としてさまざまな活動に参加できたことはすばらしい経験となりました。東京本社前の花壇の手入れなど、社外での活動では住民の方々に感謝のお言葉やアドバイスをいただき、ありがたい気持ちと充実感でいっぱいになりました。

環境を意識することや社会を意識することで、社員の皆さまにとっても、何かのきっかけになるとうれしく思います。

総務部 CSR推進グループ
星加 史紀



未来はシヨベルカー次第

ノルウェーの陶芸家モニカ＝マルセッラ・K・アスキム氏が、コベルコ建機グループのシヨベルからインスピレーションを受け、セラミックアートを制作しました。氏は工場見学や取材を通して、シヨベルの果たす社会貢献について高い理解を示しています。
(本誌P16参照)



感じています、新鮮!

小さな風。きっと最初はそこから始まる。
その風が共鳴しあい大きなニーズに成長する。
私たちは小さな風に耳を澄ます、感じとる。
人にもっと優しい技術の道を切り拓くために。
新しさと提案に満ちたマシンづくりを。
新風を感じ、帆いっぱい促え、また新たな旋風を呼ぶ。
マシンと人間の新しい関係が生まれる。

"Feelin' Fresh!"は、何よりお客さまの現場を重視する
「ユーザー現場主義」の姿勢を貫くことを誓う
私たちのコーポレート・メッセージです。

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社:〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社(広島事業所):〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-1111
大垣事業所:〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

東日本コベルコ建機株式会社

〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-328-7111

西日本コベルコ建機株式会社

〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地の1 ☎06-6414-2100

コベルコ教習所株式会社

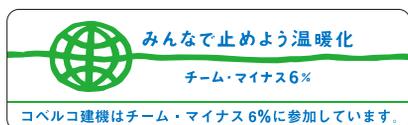
〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-327-2785

コベルコ建機エンジニアリング株式会社

〒731-0138 広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-5558

コベルコ建機インターナショナルトレーディング株式会社

〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2124



本冊子は大豆油インク及び再生紙を使用しています